

2023年度(令和5年度) 愛農学園農業高等学校 自己評価表

学校教育目標	(1) 神・人・土を愛する三愛精神と聖書の精神に基づく人格形成を目標に、神(キリスト)の愛に根ざした隣人愛の実践をとりわけ農業(土)を通して育む人間を教育する。 (2) 聖書(キリスト)の教えを教育の土台とし、神との対話(祈り)による良心教育を目指す。 (3) 「自分を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい」との精神に根ざし学校・寮生活を通して、互いを認め、互いをゆるし、互いに尊重しあえる人間を教育する。 (4) 有機農業を実践し、化学肥料・農薬を用いず作物を世話し、環境にやさしい農業教育に力をいれ、農場で生産された命を毎日食卓でいただく。
学校経営方針	(1) 1学年1クラス25人とし3学年75人を定員とした少人数での全寮制による人格教育を行う。 (2) 農業の実践を重んじ朝晩の農場及び校外実習を通して農と命を学び、愛の実践に取り組む。
重点努力目標	(1) 世界の人々を愛し平和を作る人となるため、国際交流及び平和学習に重点を置く。 (2) 持続可能な社会を作り出すため、化学的、生物的、物理的合成物(農薬、遺伝子操作、原子力)を使わない農と命の教育に重点を置く。

1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参加における教育的成果の評価

評価項目	目標	指標・具体的方策	成果と課題	評価
(1) 学校教育目標	本校の建学の精神及び教育方針を踏まえ、具体的な教育活動に努める。	重点努力目標を踏まえ、学校の実態に即し、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	本校の建学の精神及び教育方針を踏まえて作成した具体的な重点努力目標を一步一步実現していく課題として志を持ち続ける。	4
(2) 学校経営方針	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された学校経営方針を全教職員が共有し、教育実践に努める。	学園において作成している「中期目標計画」に則り、PDCAサイクルにのせて実践、評価、見直しを行っている。本校の教育活動についての地域への広報等については弱いため改善を図りたい。	4
		教育目標や経営方針等を生徒・保護者・地域等に説明したり、広報したりすることに努めている。		4
		日常の教育活動の中で「学校方針」に基づいた対応がなされている。		3
(3) 学年経営	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	定期的に担察会を開き、生徒の目標の達成状況、課題等について職員間の共通理解を図り、統一的な支援を行う。	年間2回の「相談会(三者面談)」を実施しているが、コースや学級の実態に応じ、随時「個別面談」を実施し、円滑な 学級運営に努めている。	4
		個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。		3
(4) 寮経営	学校目標に沿った温かい寮づくりを行う。	学校目標や寮目標に沿って、寮の実態に応じた寮経営を行う。	定期的に担察会を開き、生徒の目標の達成状況、課題等について職員間の共通理解を図り、統一的な支援を行う。	3
(5) 農場経営	学校目標に沿った持続可能な農場づくりを行う。	学校目標や農場目標に沿って、農場の実態に応じた経営を行う。	定期的に農場会議を開き、目標の達成状況、課題等について職員間の共通理解を図り、統一的な取り組みを行う。	4

2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	目標	指標・具体的方策	成果と課題	評価
(1) 教育課程の編成	時代とともに変化していく、教育課程についての工夫。	年度末毎に管理職と教務部を中心に教育課程の工夫について、検証や確認を行う。教科間連携により横断的な学びを工夫する。	教育課程の工夫について、検証や確認を学期末に行った。教科間連携により横断的な学びは今後の課題。	4
	本校教育課程の柱としての変わることはない人格教育および農業教育の深化と持続的展開を目指す。	定期的に職員研修を行い、継続して学校教育目標や理念について、また具体的な実践の知識・技能について継承していく。	職員研修を1月に実施。学校教育目標や理念について、毎週の読書会によって学び理解を深めた。具体的な実践の知識・技能は今後の課題。	3
(2) 教科指導	学習指導法の研究と工夫。	教員間での授業見学や研究授業、生徒による授業評価を実施する。アクティブラーニングの実施状況の共有を行う。	教員間での授業見学や研究授業はあまり行われず今後の課題。生徒による授業評価を実施した。アクティブラーニングの実施状況の共有は今後の課題。	4
	学园内教材を推進する。	本校の教育目標実現のために、学内にある生きた教材を活用する機会を大事にする。	本校の教育目標実現のために、学内にある生きた教材を多角的に活用した。	4
	年間指導計画(シラバス)を共有する。	成績会議等、定期的な教科担当者会議を活用して、学習目的や計画を共有する。	成績会議等、定期的な教科担当者会議を活用して、学習目的や計画を共有した。	3
	評価基準を共有する。	観点別評価を活かし、教科指導改善や学習状況改善に繋げる。	観点別評価、教科指導ならびに学習状況に改善がみられる。	4
(3) 農場教育	自主的な学習を促進する。	図書館、各種検定、アドバイザーを活用し、マイタイムの充実を促す。	図書館、各種検定、アドバイザーを活用し、マイタイムの充実を促したが、目標達成には多くの課題が残る。	4
	農場経営、作業を行う力を養う。	実習での上級生による下級生の指導を促す。作付け計画、作業計画を通して、長期間での視点を身に着ける。	間違った認識で下級生に教えていることがあるので、上級生への確認を継続して行いつつ、任せべきところは任せていく。	2
	農業の知識や技術を学ぶと共に、自己の変化や成長をサポートする。	日々の実習や管理作業の中で、生徒の状況を把握し、それぞれに応じて、必要なことを伝えていく。	今後も生徒の状況に合わせて、よりよい部門での時間を共に過ごす。生徒の半分以上が農業方面へ進路選択をした。	4
	環境に配慮した循環型の持続可能な農場経営。	土に有機を還元し炭素を貯蔵する持続可能農業の取組。育成牛放牧地造成。自家採種。キャンパス林における薪の自給。	脱プラスチックを進め、自然エネルギーの活用に取り組む。	5
(4) 寮教育	経営努力	新しい加工品制作、全国へネット販売の促進と、近隣地域への販売促進。	総収支残が年決算で一千万円を超えた。	3
	自治自律支援	日常生活における自治自律を大切に寮行事を計画する。上級生を中心にサーバントリーダーシップの考え方を育む。	寮職員のそれぞれの役割が継続的に練り上げになっておらず、寮監や副寮監との連携、報告、相談の活用をどう深めていくかが課題である。	4
	自治的活動の推進	ミーティング、室長会議、係の話し合いなど話し合い(聴き合い)の設定と具体的行動の見守り(振り返り)	掃除チェック、愛の森掃除、冷蔵庫チェックなど役割を通しての自治活動が増えてきている。	3
	健康状態の見守り	声掛けや体調不良の生徒の確認。寮内の消毒。	声かけは生徒たちへ生活習慣やマイタイムの意識付けになっている。	4
	レクリエーション	寮レクリエーションでは皆が楽しめる中身での実現をサポートする。	寮レク係は担当の生徒への相談は難しかった。	4

	日曜の見守りと夕拝	夕拝は礼拝の質に繋がるように、心掛ける。	職員夕拝が聖書の講話的中身を取り入れるよう要請する。	3
(5) 食教育	生徒の調理を育む	調理と生徒の調理への支援。	食に対して関心をもち、モチベーションを高める努力。	4 2
	健康的な調理環境を作る	健康的な食事を健康的な環境で作る	調理当番の生徒に対し働くことに対するモチベーションを持続させる課題。	4
(6) 総合的な探究の時間	目的意識を持って行先の選択を行う。	事前アンケート、面談にて自己理解を深める。農家の地域性、多様な業種を学ぶ。	事前アンケート、面談を行う。農家と地域の事前学習をおこなった。	3
	社会性・礼儀の事前学習。	農家への手紙による挨拶を行う。手紙送付の期日の守り。実習準備物をしおり作成の中で生徒自身で整える。礼儀、心構えを備える。	農家への挨拶とお礼の手紙を書き、実習日誌に提出と報告を行った。	3
	農家(経営)を学ぶ。	経営目標、作業の工夫、農産物の選び、計画性、販売方法、消費者との関係、地域特性等を学ぶ。	経営目標、作業の工夫、農産物の選び、計画性、販売方法、消費者との関係、地域特性等を学びを報告した。	4
	農家(家族・人・生活)を学ぶ。	農家の魅力に気付く。なぜ農業を生業にしているのか、考え方を聴く。	農家の魅力、なぜ農業を生業にしているのか、いろいろな農家の考え方を聴き、自然との共生やエネルギーに関する視点も学んだ。	4
	自身を磨く、見つめる。	考え方について、問いを求める。記録を活用し、対話を大事にする。体調管理、体力を調整する。	作業や考え方について、問いを求める。実習日誌を活用し、記録や対話に用いる。しっかりと休む。	3
(7) 特別活動	クラスの話し合いや取り組み。	本校の理念に基づいた活動を行う。話し合いの深めを起こす。各学年のクラス目標実現を目指す。	本校の理念に基づいたクラス活動とつりわけ話し合いを通して目標実現を目指した。クラスにおける問題解決に取り組んだ。	4
	よりよい人間関係の構築の場。	日々の生徒同士の関係やクラス全体の状況把握と足りない部分へのフォローアップ。	お互いに考えていることが共有出来たし、一人一人の変化にも繋がった。	3
	学習意欲ややりたいことの実現へのサポート。	HR運営、話し合いの工夫、保護者との面談・連携、早めの困りへの個別の面談、教職員全体での情報共有や協体制度の求め。	やりたいことの実現に向けての協力は担任としてやりやすい。しかし、責任意識や人間関係の構築は簡単ではない。	4
	本校の教育目標・建学の精神に即した活動を深めていく。	自然との関り、農的な活動、人の交わり、キリスト教行事を複合した、3愛精神の伴う活動に努める。	どう工夫し、高めていけるか。日々の取り組みで整えていくこと、大きな事柄に対して計画性や関係性の構築を作り出す。	5
(8) 生徒指導	生徒理解に基づき、愛の実践の声かけ励ましを行う。	「愛の実践」を学校生活の基本と位置づけ、生徒間だけでなく、来校者にも愛の行為を心がける。普通の学校生活において、個別面談等を通して基本的な生活習慣の確立に努める。	愛の実践については引き続き声かけ励ましを職員全体で続ける。今年度は大きな事案(謹慎や停学)が起こらなかった。	3 3
	生徒の相談と将来を踏まえた親身な進路支援を行う。	進路実現に向け、ガイダンス、講演会、面談等を計画的に行う。 3年生を中心に状況把握と方向性を共有し、フォロー体制を取る。	全学年対象の進路ガイダンスを2回実施 20名の進路を個別に支援した。	4 3
(10) 生徒支援	学習や人間関係等に困難をもつ生徒を支援する。	個別の支援計画の作成、保護者との連携、外部機関との連携、職員間の連携に向けた動きとアドバイザーの運営	定期的集まり、個別支援計画を作成、見直しを行った。職員共有掲示板を通し、支援に必要な生徒の共有を行った。支援の質をあげることが今後の課題	4
	心理的な悩みや精神的困難を抱える生徒の支援。	スクールカウンセラー、外部思春期外来や心療内科との連携。	カウンセラーと連携することで、生徒の特徴をとらえ、必要なサポートを他の職員と分かち合いながら生徒を見守ることができた。	4
(11) 保健	感染症予防及び事後対策。	帰寮後1週間、感染症対策を行う。三密になる状態の回避、換気、手洗いの呼びかけ。	新型コロナウイルス、インフルエンザで3度の休校措置をとった。厳しめの対策を行って行く。	4
	部活動による怪我の軽減。	試合前などに、顧問に声掛けを行った。	予防的メニューを取り入れ、怪我人は減少した。部門顧問との連携し怪我予防を引き続き実施する。	3
(12) 人権教育	生徒の人権意識の涵養	委員会活動の中での人権学習と人権集会の運営	人権集会は生徒中心で運営できた。さらに生徒の主体的活動を支える。	4
(13) 部活動	スポーツクラブは技術と体力、スポーツ精神を養う。	自分たちで練習日や練習メニューを考え、主体性と自主性を育む。近隣の施設を借りて行う。	施設を借りられない期間が多く、活動制限が大きかった。外での練習を生徒中心に行っていた。	4
	文化クラブは感性、知性、人間性を培い育む	定期的な活動を目標にそれぞれの能力を育みチームとしての目標達成を目指す	ほぼ毎週の活動が実施できた。専門的な技術へのステップアップを目指す	5
(14) 生徒会活動	生徒の自発的・自主的な活動の機会を提供する。	校内新聞発行・姉妹校交流・合同集会・イベント・地域への参画	協力して自主的に活動する団体となっている。	3
	主体的、創造的に取り組むための助言を行う。	生徒のやる気や理解に合わせた活動を応援する。生徒と職員の分担を明確にする。	司会進行や生徒全体への案内など、委員が中心になって計画的に実行できた。聖書やキリスト教の学びが足りない部分がある。	3
	生徒の自主性を尊重しながら、環境のことを考えた活動の実施	廃油を利用した石鹸制作。再生チョークづくり。エアコンの使い方の提案。ゴミ回収やゴミ箱作成により、分別などの意識付け。	誰でもできる、学校生活に直結した、また今後に関与する環境にやさしい活動を模索した。	5
	生徒の創造性と責任意識を養い、活躍の機会を与える。	合同集会を活用する。様々な年間行事において各生徒会が分散して責任を負い、事前準備と事後の引継ぎを大切に行う。	責任感を持って自他ともに充実するほどの活動まで至っていない。愛農を外部に誇りを持って伝えて行くプロ意識をどう持たせていくか。	5

3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価

評価項目	目標	指標・具体的方策	成果	評価
(1) 校務分掌	長が中心となって役割を振り、各分掌の業務をチームで計画的に行う。	週毎の分掌会議の時間を用いて、チームで取り組む。職員会議での報連相を行う。	週毎の分掌会議を実施できた。チームで取り組むこと、報連相を確実にすることが課題。	4
	改善課題、また中長期的な活動目標にも取り組む。	学期毎の総括会議を用いて、取り組みへの報連相を継続する。	学期毎に総括会議を実施、課題の取り組み状況を確認し、さらなる前進を模索した。	3
	活動記録や報告、資料保存の最適な方法を模索する。	学校ICT(情報通信技術)を活用し、仕事の軽量化、円滑化、共有化を図る。	学校ICTによってペーパーレス会議、遠隔参加を実現、仕事の効率化、共有化が前進した。	4

(2)各種委員会	役割を振り、チームで計画的に行う。教員全体の共有を行う。 改善課題、また中長期的な活動目標にも取り組む。	週毎の委員会会議の時間を用いて、チームで取り組む。職員会議や朝の打ち合わせを用いて、情報共有に努める。 学期毎の総括会議を用いて、取り組みへの報連相を継続する。	隔週の委員会会議を実施できた。チームで取り組むこと、情報共有を確実にすることが課題。 学期毎に総括会議を実施、課題の取り組み状況を確認し、さらなる前進を模索した。	4 2
(3)校内研修	職員の資質向上と学校理念の共有。 教育の創造性と展開の深化	年に1度の職員研修の充実。学校理念の共有 週毎の職員会議で継続的に読書会を行う。	愛農会、卒業生、農家、聖霊社関係、地域の方などの招き、また外部講師を積極的に依頼し、学びの機会を継続する。	5
(4)活性化	生徒・教職員による活性化	新しい発想や提案をしやすい環境をつくり、新しい教職員の意見・視点を積極的に聴く。合同集会、生徒職員協議会を用いる。	生徒の意見・視点を教職員は積極的に聴く。合同集会、生徒職員協議会を創り出す。	4

4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価

(1) 学校環境整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に清掃活動に取り組む。 省エネ運動を推進し、エアコン・電灯等の無駄な使用をなくす。	全校生徒・職員により、毎日 15 分間の清掃を実施、積極的に取り組んでいる。環境美化の意識については、通常のコスト活動はもとより、行事を通して徐々に高められている。 省エネについても、校内設置の使用電力上 限警告装置により、意識喚起につながっている。	4 3
(2) 施設・設備の管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。施設・設備の安全点検や補修を月 1 回以上行い、環境整備を図る。	「学校安全点検表」を用いて、教室管理責任者により、安全点検は確実に実施している。	4
(3) ITC 設備の充実	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化(データベース化)に伴い、効率的な事務作業を行う。	生徒情報のデータベース化により、効率的な事務作業が行われている。個人情報保護の観点からも、情報管理は徹底している。	4
(4) 危機管理	危機管理の適切な準備	危機管理規程に基づき、具体的な事例を想定した「対応マニュアル」に則った対応がスムーズにできる。	原子力災害の危機管理を「対応マニュアル」に盛り込んだ。	3

5 開かれた学校づくり

(1) 保護者と連携	保護者・地域の方との交流による活性化	PTA総会、学校評価委員会、親子交流会、親の出前授業などを用いる。	PTA総会、学校評価委員会、親子交流会、親の出前授業などを実施。	4
(2) 関係者との連携	関係者の農家、愛農会・聖霊社との繋がりによる活性化	講演やオンライン授業の依頼、愛農祭・愛農聖研・50年後の卒業式等での繋がりを大切にする。	講演やオンライン授業の依頼、愛農祭・愛農聖研・50年後の卒業式等での繋がりが成果として現れている。	5
(2) 地域との連携	地域の方との交流による活性化。関係機関との連携を深める。	小学校、中学校、福祉施設との交流を深める。地域の祭りや行事に参加する。関係機関から講演等を依頼する。	地域(住民会、小学校)との交流が再開できた。地域や関係機関との連携を深めていく。	4
(3) 情報の公開	学校自己評価表の公開	授業評価、職員自己評価、学校関係者評価を通して学校自己評価表を公開する。	授業評価、職員自己評価、学校関係者評価を通して学校自己評価表を公開した。	3